

# 秋の本田雑草対策

あおば農業協同組合

ヒエやクサネム、アメリカセンダングサなどの雑草が年々増加しています。  
今年発生した雑草の種子は、ほ場内に残るだけでなく、用水等から地域全体に蔓延することが懸念されます。  
近隣圃場へ迷惑がかからないよう、必ず秋の雑草対策に取り組みましょう！

## 本田雑草防除対策

### ○プリグロックスL

効果：翌年のヒエ、クサネム、アメリカセンダングサ等の1年生雑草の発生密度の低減。  
こぼれ粃など、次作の水稲の異品種混入を減らします。  
方法：稲刈り後（または春期水田耕起1か月前から直前まで）に  
10a 当たり 薬液 800～1,000ml/100～150ℓ 散布する。  
留意点：低圧で風向きなどに留意し、付近の作物等にかからないようにする。

### ○ラウンドアップマックスロード

効果：塊茎を形成する雑草にも浸透移行し、密度を抑える。  
方法：稲刈り後（または春耕起前）の雑草生育期に  
10a 当たり 1年生雑草：薬液 200～500ml/50～100ℓ  
多年生雑草：薬液 500～1000ml/50～100ℓ 散布する。  
留意点：風向きなどに留意し、付近の作物等にかからないようにする。  
※ 専用のラウンドノズル®ULV5を使用することで小水量散布（10a 当たり 5ℓ）も可能です。詳細は、各営農経済センターへお問い合わせください。

### ○石灰窒素

効果：ヒエの発芽促進によりヒエを枯らし、翌年の発生密度を抑える。  
方法：収穫後、10月上旬までに、10a 当たり 40～50kg 散布。  
（降雨後、稲ワラが湿っている状態で散布）  
留意点：発芽が確認されれば、従来通り耕起する（目安は約1か月後）。  
翌年の作付けは、基肥量を2割程度削減する。

## 畦畔雑草防除対策

効果：秋冬、または春先散布で、1年生雑草をはじめ、スギナにも長期間の抑草効果が期待でき、夏の除草作業を軽減できます。  
方法：①秋冬期散布…雑草の生育が止まり、枯れ始めた頃に散布する。  
②春期散布……雑草の発生前～発生始期に散布する。  
※1袋（3kg）で1mの幅の畦畔を約500m散布可能です。  
留意点：水田内へ飛散しないよう注意する。

※雑草が多く発生した圃場については、来年の本田除草体系についても見直しをしましょう。  
詳しくは、各営農経済センターや農林振興センターにお問い合わせください。